



いいたて

# 議会だより



栃木県上三川町のまつりに招待された佐須の虎捕太鼓

## 平成23年6月定例会

6月定例会議案審議 .....	2～3
一般質問「3議員が村政を問う」 .....	4～6
災害対策特別委員会報告 .....	7
所管事務調査報告・編集後記 .....	8

No.51

平成23年8月5日  
発行：飯館村議会

議案審議

# ザ・議論

6月定例議会では  
補正予算などの議案審議を通して  
次のような議論が交わされました



▲好評な子育てクーポン券（平成22年度）

## 子育てクーポン 交付事業

**質問** 中止と言う事  
であるがなぜか。

**答弁** 村内で流通する  
地域通貨的な発想で  
5年間事業を行ってき  
たが、今回全村避難で  
難しくなった。

**質問** 継続する方法  
はないか。

**答弁** 何とか続けた  
いが現時点では避難状  
況の把握が難しいので  
早期に把握し検討した  
い。

**質問** 検討に当って  
対象人数が増える事業  
のあり方を考えている

のか。

**答弁** 今までは3人  
目からであったが、実  
施の方法としては2人  
目あるいは1人目から  
も検討したい。

## 内部被ばく 検査事業

**質問** 対象人数が20  
名という事だが抽出方  
法は。

**答弁** 線量の高い地  
区を重点に男女別、年  
齢、職業を考え20名抽  
出したいと考えている。

**質問** 20名では少な  
いのではないか。

**答弁** 今後検討して  
いきたい。

**質問** 今後検査の結  
果をどのように生かし  
ていくのか。

**答弁** 県で実施する  
健康管理なので、検査  
結果を県へ送り県で管  
理していく。また今後  
の健康管理に生かして  
いく。



▲避難先で必要とされるコミュニティ

## 避難先での コミュニティ の取り組みは

**質問** 多くの村民が  
ばらばらに避難してい  
る状況で新しいコミュニ  
ティが予想されるの  
か。

**答弁** 何箇所かま  
とまって10戸以上の集  
落ができる事を想定し  
て一事業100万円を  
上限にPTAの団体や  
育成会等に90%の助成  
を考え村民のつながり  
の支援事業ができれば  
と考えている。



▲見守り隊の結団式

緊急雇用による全村見守り隊

**質問** 2日に1回ではなく毎日のパトロールは実施できないか伺う。

**答弁** 放射線の健康リスクの管理面から2日に1回としたい。

**質問** 周辺地区での地区集会所を拠点にできないか。

**答弁** 最大限柔軟な対応をしていきたいが、健康リスクの管理と雇用の管理の面から難しいが検討したい。

**質問** 自治会保険とかが具体的な保障内容は。

**答弁** 死亡1億円、入院5千円、通院3千円の内容である。

**質問** 放射線リスク管理のため線量計を携帯させるべきと考えるが。

**答弁** 当然線量計は隊員の方には携帯していただく。

税減収の対策は

**質問** 村税減収分の交付税の見直しは。

**答弁** 通常は2億円であるが総務省へ現在12億円要望をしている。

土木管理  
委託金

**質問** 国・県道の草刈りは減額であるが、村道は予算計上されている。不都合は生じないか。

**答弁** 国・県道の草刈りについては、県より取りやめということになった。村道の草刈り、道路補修も含め作業人夫で対応したい。

**質問** 業者委託か、地域住民がかかわるのか。

**答弁** 業者委託と考えている。

議員報酬の減額発議

3月11日東日本大震災に伴う原発事故災害によって4月22日国から計画的避難区域に指

定され村外への避難に対し村民の方々の苦悩を思うと心が痛む思いであります。よって

議会我々においても今後の村の総合的な復興を考え議員報酬月額を現在の10%に更に10%を加え平成25年9月30日まで20%減額とすることを全議員の賛成で可決した。



▲荒れ放題の村道

# 村政

## ここが ききたい？

一般質問 Q&A



佐藤 長平 議員

**問** 計画的避難の課題は何か  
**答** 遅れてからの避難のため時間が  
かかった

**質問**  
福島第一原発事故災害の対応の中で、国から指定された計画的避難の現状と課題について伺う。

**答弁**  
5月9日に策定した飯館村避難計画で、4段階の避難優先順位を定め、避難者の把握、説明会の開催、避難希望の受付、避難先の修理と赤十字家電の準備、避難の実施という手順

で避難を進めてきた。避難の課題としては、後発の避難であったため、避難所及び仮設住宅の用地、資材の確保に時間がかかった。自宅介護している高齢者の避難先確保が難しかった。牛の補償額が決まらず、移動やセリ市出荷に時間がかかったことなどから、国が示した概ね1カ月で避難を完了することは出来なかった。

**質問**  
帰村復興ビジョンの策定について、理念と基本方針について伺う。

**答弁**  
帰村後の復興計画は、今後の村づくりに大きく影響するので、計画の策定にあたっては、議会をはじめ村民、関係機関、有識者等の意見を広く聞いて、村民に意欲と希望を与えることができる計画にしなければと考えている。現時点で想定される計画の基本的な柱は、①村民の不安解消策と長期的な健康づくり、②情報の共有のためのコミュニティづくり、③村民の生活再建への取り組みと工夫、④新たな発想による産業の振興、⑤次代を担う子どもや若者の人づくりを考えており、特に「村民の生活再建」を最重要課題として捉え、庁内に「飯館村復興計画

検討委員会（仮称）」を設置し、理念及び基本方針について具体的に検討して参りたい。



▲建設中の仮設住宅



松下 義喜 議員

**問** 放射能汚染に対する健康管理について

**答** 検査人数を増やすよう国県に働きかける

**質問** 村民の内部被ばく検査の徹底と早期の実施対策について伺う。

**答弁** 全県民を対象に基本調査を実施し、計画的避難区域の住民に対しては詳細調査を実施し千葉県にある放射線医学総合研究所において少しでも早い機会に検査できるように国・県に要請している。村の対

象者は15名から20名が予定されている。6月下旬から7月上旬には実施できる。内部被ばく検査結果も重要であるが、専門医による十分な説明やフォローが安心につながりそちらにも時間を多くとるよう要請をしている。

**問** 所得補償について伺う。

**質問**

3ヶ月以上無収入の村民が多くいる中で村民の当面の生活費をどのように考えているか伺う。

**答弁**

4月29日に一人当たり3万円の見舞金を交付、日本赤十字社から一戸当り35万円、県から5万円の義援金が交付、東京電力から一般家庭への補償仮払い二人以上世帯に100万円、単身世帯に75万円支払われ短期的にはこれらを活用いただきたい。商工業は過去3年と比較し粗利の50%20万円から250万円の仮払いが行われている。緊急雇用創出基金事業で「全村見守り隊」事業で約6億5千万円の予算で約370名を雇用

し、当面の生活費の確保に努めている。

**質問**

村長が農林水産大臣に対し賠償・補償についての要求書を5月6日に提出しているが、その中の項目11番真野ダム建設事業の実例で補償を行うこととして

いるが今後原子力災害の規模、村内汚染状況の詳細が判明した結果、2カ年度以内の全村での営農再開が不可能と判断された場合補償交渉はどう進める考えか伺う。

**答弁**

できるだけ早く村に戻り営農を再開すると強い意志を示したものであり、速やかな除染の実施や復帰に向けてあらゆる方策を講じて頂くよう要望したものである。



▲スクリーニング検査のようす



佐藤 八郎 議員

**問** 自分の健康状態を知りたい、公平な支援と生活費の保障を  
**答** 健診と血液検査を進め健康で安心して暮らせる支援をしていく

**質問**

福島第一原発事故により放射線を浴びた村民の早い避難を3月19日4月15日に4回村長に要望したが「避難する区域にしないで」の言動をするなど、「もう原発はいらない」の村民の意思と違う「反対の旗手になるつもりはない」の文書を4月9日に農林水産大臣へ提出した。4月22日に

政府指示により避難の方向にあるにもかかわらず、9事業所・見守り隊活動のため村内に通勤して放射線を浴びる。最近では線量の低い地域の避難解除等の発言。村長は何故、もっと早く危険な放射能から村民を避難させなかったのか伺う。

**答弁**

希望ある村民には、栃木県鹿沼市へ、乳幼

児・妊産婦は福島市へ。比叢・長泥・蔵平地区住民はやすらぎへ避難。さらに放射線リスク講演会を数回実施し避難計画に基づき対応した。

**質問**

5月25日臨時会6月3日の本年度予算説明の中で村民の健康状態・体内被ばく検査の予算がないし6月議会でも20人分80万円の予算しかとっていない。SP E E D I等の実測値発表までは、多くの村民は避難者受入れ、家屋修繕、物資配布等で毎日外での活動が続き放射線を浴び口からも吸収していると思われる。早い時期に検査を進めるべきである。

**答弁**

県の実施する内部被ばく検査にあわせ要請し、全村民への健康診査・血液検査等を、8月下旬から順次実施したい。

**質問**

弱者が同居する家庭が家族揃って暮らせるようにすること。必要に応じて施設・病院等対応すべきである。乳幼児、子ども、青年居住の家庭は行政施策の失敗により家族、避難先もバラバラとなってしまう。同被害者となった村民でも受けられる支援もバラバラであり、家族が寄り添って暮らせるよう実態をつかみ国、県、村が公正・公平な支援をすべきである。

**答弁**

相談には出来る限り対応し、家族が近くに入居できるよう調整に配慮している。受けられる支援が受けられないことがあつてはならないため避難の状況により検討し実施する。今後も実態把握、情報伝達の方法、相談体制の充実等対策を講ずる。

**質問**

村内の事業所・他事業所で働く方、仕事のない方等多くの村民は不安をかかえ先が見通せない生活になっている。収入のない村民への生活費保障をどうするのか。憲法25条の「人間らしい生活」となるような施策を示せ。

**答弁**

東京電力の仮払い（一人以上の世帯は100万円・一人世帯は75万円）義援金（一世帯40万円）見舞金（一人3万円）を当面活用いただきたい。また緊急雇用創出基金事業約6億5千万円の予算、「いいいて丸ごと見守り隊」事業も活用いただきたい。今後は仮設住宅、県借上げ住宅へのスムーズな避難を進め、健康で安心して暮らせるよう支援して参りたい。

# 東電第一原発事故

# 災害対策特別委員会

活動報告

当委員会は、3月11

日東日本大震災並びに

福島第一原子力発電所

事故発生により「東日

本大震災並びに福島第

一原子力発電所事故災

害対策特別委員会」を

3月18日、村内の被災

状況を確認、情報収集

等を行うため議会全員

構成により設置しまし

た。委員長に大谷友孝、

副委員長に大和田和夫

が選出されました。

## 1、調査事項

東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故災害に関する調査

## 2、特別委員会の開催経過及び開催日

### 第1回 3月8日

東日本大震災並びに福島第一原子力発電所事故災害対策特別委員会を設置、正・副委員長の選出を行い、委員会の目標について協議を行った。設置期間は、

調査が終わるまでとした。

### 第2回 3月24日

今後の委員会調査の進め方について協議、村長より東日本大震災の現況等の説明。JA そうまの農作物の作付けに関する件等について

### 第3回 3月28日

東京電力福島第一原子力発電所の事故災害の現況について、JA そうまの現況について、小・中学校の現状と対応について、無利子生活資金の貸し付け等について

### 第4回 3月31日

IAEAが村民に避難勧告するよう日本政府に促した問題について、小・中学校の授業の再開時期について、東日本大震災・原発事故の現況の説明等について

### 第5回 4月4日

村内土壌診断の結果

に対する検討について（国の調査結果がでなかったので次回検討とした）

JA そうまとして南相馬地区は4月7日に協議会を開催し作付けについて決定する。議会として村の農作物の作付けについては、次回最終判断とすることとした。

村内土壌調査の結果に対する検討について（4月6日の県の結果が出たが、作付けについて今回は結論がでなかった）

計画的避難区域の指定計画の発表がされた件等について

計画的避難区域の設定にかかる対応について、今年度の農作物作付け方針について（作付けしない方針を出した）、小・中学校の始

業式などについて

計画的避難区域指定後の取り組みについて、相馬農業高等学校飯館校の対応等について

避難計画の進行及び住居申し込みの状況について

農畜産物の補償対策について、国への緊急要望等について

23年度予算の協議について、23年度見直し事業等について

村内商工業等の補償対策について、避難状況について、仮説住宅の建設状況について、農畜産物の補償対策等について

### 第9回 4月25日

計画的避難区域指定後の取り組みについて、相馬農業高等学校飯館校の対応等について

避難計画の進行及び住居申し込みの状況について

農畜産物の補償対策について、国への緊急要望等について

23年度予算の協議について、23年度見直し事業等について

村内商工業等の補償対策について、避難状況について、仮説住宅の建設状況について、農畜産物の補償対策等について

23年度予算の協議について、23年度見直し事業等について

村内商工業等の補償対策について、避難状況について、仮説住宅の建設状況について、農畜産物の補償対策等について

23年度予算の協議について、23年度見直し事業等について

村内商工業等の補償対策について、避難状況について、仮説住宅の建設状況について、農畜産物の補償対策等について

### 第11回 6月3日

23年度予算の協議について、23年度見直し事業等について

村内商工業等の補償対策について、避難状況について、仮説住宅の建設状況について、農畜産物の補償対策等について

23年度予算の協議について、23年度見直し事業等について

村内商工業等の補償対策について、避難状況について、仮説住宅の建設状況について、農畜産物の補償対策等について

23年度予算の協議について、23年度見直し事業等について

村内商工業等の補償対策について、避難状況について、仮説住宅の建設状況について、農畜産物の補償対策等について

23年度予算の協議について、23年度見直し事業等について

村内商工業等の補償対策について、避難状況について、仮説住宅の建設状況について、農畜産物の補償対策等について

23年度予算の協議について、23年度見直し事業等について



▲岡田幹事長へ要請活動

# 常任委員会

# 活動



常任委員会の活動として総務文教常任委員会が各学校の状況調査、産業厚生常任委員会が避難所の実態調査と医療体制と運営の在り方についてそれぞれ調査を行った。

産業厚生常任委員会では各避難所を回り、避難生活を過ごしている村民の方々の声を聴衆した。長引く避難生活の中で、復興に向けて宅地や山林の放射能除染対策のあり方、内部被ばくと健康障害、通院や

介護と仮設住宅の場所との関連など切実な声が寄せられた。また子供と共に避難されているお母さん達からは子供の遊び場の確保、放射線量の測定に関して要望が寄せられた。

## 復興に向けた除染対策は

(産業厚生常任委員会)



▲ホテルプルミエール箕輪にて

## 創意と工夫を凝らした教室づくり

(総務文教常任委員会)

総務文教常任委員会では避難先での教育環境及び、施設の状況について調査を行った。川俣町のご厚意もあり、各学校の施設については、仮校舎のためせまい場所もあるが、創意と工夫を凝らした教室づくりにも励まれていることを感じた。

相馬農業高等学校飯館校については、体育館などの活用で勉強の環境としては若干違和感が残るが県の好意により寮生活となっており、本人の通学時間ももとより保護者の金銭的負担が少なく済んでいる。



▲中学校の授業のようす (川俣高校にて)

## 編集後記

国から計画的避難の指示が出されて約三ヶ月経過しようとしています。村始まって以来の出来事で、各避難所で生活されておられる村民の皆さんには本当に御苦労をおかけしております。

皆さんからも、一刻も早い復興に向けて除染対策などの取り組みを切望する声が寄せられています。議会としてもこれからも村、国、県に対して強く要望を続けて行きます。

### 発行責任者

- 議長 佐藤 長平
- 副議長 大和田和夫
- 委員 菅野 義人
- 委員 大谷 友孝
- 委員 北原 経
- 委員 飯樋善二郎
- 委員 松下 義喜

### 広報編集特別委員会